

# ダニが運ぶ感染症に注意



## どんな病気？

ダニに咬まれることによって感染するダニ媒介感染症には、「つつが虫病」「日本紅斑熱」「ライム病」「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」「ダニ媒介脳炎」などがあります。ダニによる感染症の多くは、咬まれたあと数日から数週間以内に発熱や頭痛、関節痛、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）では、意識障害や出血症状が現れ重症化する場合があります。日本での致死率は27%といわれています。

※「ダニ」には、屋内で生息するコナダニ類、チリダニ類などは含みません。

## どうやってうつるの？

ダニに咬まれることによって感染しますが、すべてのダニが病原体を持っているわけではありません。

## どんなところにいるの？

ダニは日本全国に分布しています。特に野生動物が生息する自然環境が豊かな場所に多く生息しますが、市街地周辺でも自然が豊かであれば、畑やあぜ道などにも生息していることがあります。

## どのくらい多いの？

ダニの多くは春から秋にかけて活動が活発になりますが、温暖な地域では冬でも活動しています。

重症化するSFTSは、西日本を中心に患者が発生した年もありました。

東京では、つつが虫病の報告が毎年秋から初冬にかけてあります。

## どうやって防ぐの？

予防接種や特異的な治療法はありません。

ダニは人間以外にも野生動物やイヌ、ネコも吸血します。山林などに多く生息し、庭や畑、あぜ道などにもいますので、農作業やハイキングなどで山林に入る場合は、ダニに咬まれないように長袖、長ズボンを着用し、肌の露出を控えましょう。

ダニに咬まれたときに吸血中に無理に取り除こうとすると、ダニをつぶして病原体が体内に入ってしまうおそれがありますので、すみやかに医療機関を受診しましょう。

首にはタオルを巻くかハイネックのものを着用する

長袖を着用し、袖口は手袋の中へ

シャツの裾はズボンの中へ

ズボンの裾は長靴の中へ  
シューズの場合はズボンの裾に靴下をかぶせる

